

## **Sun Fire X4470 M2 サーバー**

Linux オペレーティングシステム設置マニュアル



Part No.: E23469-01  
2011 年 6 月

このソフトウェアおよび関連ドキュメントの使用と開示は、ライセンス契約の制約条件に従うものとし、知的財産に関する法律により保護されています。ライセンス契約で明示的に許諾されている場合もしくは法律によって認められている場合を除き、形式、手段に関係なく、いかなる部分も使用、複写、複製、翻訳、放送、修正、ライセンス供与、送信、配布、発表、実行、公開または表示することはできません。このソフトウェアのリバース・エンジニアリング、逆アセンブル、逆コンパイルは互換性のために法律によって規定されている場合を除き、禁止されています。

ここに記載された情報は予告なしに変更される場合があります。また、誤りが無いことの保証はいたしかねます。誤りを見つけた場合は、オラクル社までご連絡ください。

このソフトウェアまたは関連ドキュメントを、米国政府機関もしくは米国政府機関に代わってこのソフトウェアまたは関連ドキュメントをライセンスされた者に提供する場合、次の通知が適用されます。

U.S. GOVERNMENT RIGHTS Programs, software, databases, and related documentation and technical data delivered to U.S. Government customers are "commercial computer software" or "commercial technical data" pursuant to the applicable Federal Acquisition Regulation and agency-specific supplemental regulations. As such, the use, duplication, disclosure, modification, and adaptation shall be subject to the restrictions and license terms set forth in the applicable Government contract, and, to the extent applicable by the terms of the Government contract, the additional rights set forth in FAR 52.227-19, Commercial Computer Software License (December 2007). Oracle America, Inc., 500 Oracle Parkway, Redwood City, CA 94065.

このソフトウェアもしくはハードウェアは様々な情報管理アプリケーションでの一般的な使用のために開発されたものです。このソフトウェアもしくはハードウェアは、危険が伴うアプリケーション (人的傷害を発生させる可能性があるアプリケーションを含む) への用途を目的として開発されていません。このソフトウェアもしくはハードウェアを危険が伴うアプリケーションで使用する際、安全に使用するために、適切な安全装置、バックアップ、冗長性 (redundancy)、その他の対策を講じることは使用者の責任となります。このソフトウェアもしくはハードウェアを危険が伴うアプリケーションで使用したことに起因して損害が発生しても、オラクル社およびその関連会社は一切の責任を負いかねます。

Oracle と Java は Oracle Corporation およびその関連企業の登録商標です。その他の名称は、それぞれの所有者の商標または登録商標です。

AMD, Opteron, AMD ロゴ, AMD Opteron ロゴは、Advanced Micro Devices, Inc. の商標または登録商標です。Intel, Intel Xeon は、Intel Corporation の商標または登録商標です。すべての SPARC の商標はライセンスをもとに使用し、SPARC International, Inc. の商標または登録商標です。UNIX は X/Open Company, Ltd. からライセンスされている登録商標です。

このソフトウェアまたはハードウェア、そしてドキュメントは、第三者のコンテンツ、製品、サービスへのアクセス、あるいはそれらに関する情報を提供することがあります。オラクル社およびその関連会社は、第三者のコンテンツ、製品、サービスに関して一切の責任を負わず、いかなる保証もいたしません。オラクル社およびその関連会社は、第三者のコンテンツ、製品、サービスへのアクセスまたは使用によって損失、費用、あるいは損害が発生しても一切の責任を負いかねます。



リサイクル  
してください



Adobe PostScript

# 目次

---

このマニュアルの使用方法 vii

▼ ソフトウェアとファームウェアのダウンロード viii

## 部 I x86 サーバーへの Linux ソフトウェアのインストール

### 1. Oracle Hardware Installation Assistant を利用した OS のインストール 3

Oracle Hardware Installation Assistant の作業の概要 4

Oracle Hardware Installation Assistant の入手方法 5

Oracle Hardware Installation Assistant のドキュメントリソース 5

### 2. はじめに 7

サポートされる Linux オペレーティングシステム 8

Linux インストールの前提条件 9

Linux のインストール作業の概要 10

### 3. Oracle Linux のインストール 11

Oracle Unbreakable Enterprise Kernel for Linux 12

ローカルメディアまたはリモートメディアを使用した Oracle Linux のインストール 13

インストールを開始する前に 13

▼ ローカルメディアまたはリモートメディアを使用した Oracle Linux 5  
のインストール 14

PXE ネットワーク環境を使用した Oracle Linux 5 のインストール 17

取り付けを開始する前に 18

▼ PXE ネットワーク起動を使用した Oracle Linux 5 のインストール 18

Oracle Linux インストール後の作業 19

TPM のサポートの設定 19

Oracle Linux の登録と自動更新の有効化 19

ローカルコンソールまたはリモートコンソールを使用した Oracle Unbreakable Enterprise Kernel for Linux のインストール 20

インストールを開始する前に 20

▼ ローカルコンソールまたはリモートコンソールを使用した Oracle Unbreakable Enterprise Kernel for Linux のインストール 20

#### 4. SUSE Linux Enterprise Server のインストール 23

ローカルメディアまたはリモートメディアを使用した SLES 11 SP1 のインストール 24

インストールを開始する前に 24

▼ ローカルメディアまたはリモートメディアを使用した SLES 11 SP1 のインストール 25

PXE ネットワーク環境を使用した SLES 11 SP1 のインストール 30

インストールを開始する前に 30

▼ PXE ネットワーク起動を使用した SLES 11 SP1 のインストール 31

SLES のインストール後の作業 32

SLES オペレーティングシステムの更新 32

▼ SLES オペレーティングシステムの更新 32

TPM のサポートの設定 33

#### 5. Red Hat Enterprise Linux のインストール 35

ローカルメディアまたはリモートメディアを使用した RHEL 5.5 または 6.0 のインストール 36

インストールを開始する前に 36

▼ ローカルメディアまたはリモートメディアを使用した RHEL 5.5 または 6.0 のインストール 37

PXE ネットワーク環境を使用した RHEL 5.5 または 6.0 のインストール	39
インストールを開始する前に	39
▼ PXE ネットワーク起動を使用した RHEL 5.5 または 6.0 のインストール	40
RHEL インストール後の作業	41
RHEL の登録と自動更新の有効化	41
TPM のサポートの設定	41
Oracle Unbreakable Enterprise Kernel for Linux のインストール	41

## 部 II      Linux システム管理者のための参照情報

A. サポートされるインストール方法	45
コンソール出力	45
インストール起動メディア	47
インストール先	50
B. サポートされているオペレーティングシステム	51
サポートされているオペレーティングシステム	52
C. 新規インストール時の BIOS のデフォルト設定	53
BIOS の出荷時デフォルト設定の確認	53
インストールを開始する前に	54
▼ 新規インストール時の BIOS 設定の表示または編集	54
D. Tools and Drivers Firmware のダウンロード	57
ダウンロード手順	57
▼ Tools and Drivers Firmware のダウンロード	57
索引	59



# このマニュアルの使用方法

---

この Linux オペレーティングシステムのインストールガイドでは、Oracle の Sun Fire X4470 M2 サーバーに Linux オペレーティングシステムをインストールして構成する方法について説明します。

本書は、サーバースystemを理解しているシステム管理者、ネットワーク管理者、およびサービス技術者を対象としています。

- [vii ページの「製品のダウンロード」](#)
- [viii ページの「ドキュメントとフィードバック」](#)
- [ix ページの「サポートとトレーニング」](#)

---

## 製品のダウンロード

すべての Oracle x86 サーバーと サーバーモジュール (ブレード) のダウンロードデータは My Oracle Support (MOS) にあります。MOS には、2 つのタイプのダウンロードデータがあります。

- ラックマウントサーバー、サーバーモジュール、モジュラーシステム (ブレードシャーシ)、または Network Express Module (NEM) に固有のソフトウェアリリースバンドル。これらのソフトウェアリリースバンドルには、Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM)、Oracle Hardware Installation Assistant、および他のプラットフォームのソフトウェアとファームウェアが含まれます。
- 複数のタイプのハードウェアで共通するスタンドアロンソフトウェア。このソフトウェアには、Hardware Management Pack と Hardware Management Connectors が含まれます。

## ▼ ソフトウェアとファームウェアのダウンロード

1. (<https://support.oracle.com>) にアクセスします。
2. My Oracle Support にサインインします。
3. ページの上部にある「Patches and Updates (パッチとアップデート)」タブをクリックします。
4. 「Patches Search (パッチ検索)」ボックスで、「Product or Family (Advanced Search) (製品またはファミリー (詳細検索))」を選択します。
5. 「Product? Is (製品は?)」フィールドで、完全な製品名 (たとえば、Sun Fire X4470) を入力するか、または一致する製品名の一覧が表示されるまで、製品名の一部を入力してから、該当する製品を選択します。
6. 「Release? Is (リリースは?)」プルダウンリストで、下矢印をクリックします。
7. 表示された画面で、製品フォルダアイコンの隣にある三角印 (>) をクリックし、選択肢を表示してから、該当するリリースを選択します。
8. 「Patches Search (パッチ検索)」ボックスで、「Search (検索)」をクリックします。  
製品ダウンロードデータのリスト (パッチとしてリストされる) が表示されます。
9. 該当するパッチ名 (たとえば、Sun Fire X4470 SW 1.1 リリース向けのパッチ 10266805) を選択します。
10. 表示された右側の区画で、「Download (ダウンロード)」をクリックします。

---

## ドキュメントとフィードバック

ドキュメント	リンク
Oracle のすべてのドキュメント	<a href="http://www.oracle.com/documentation">http://www.oracle.com/documentation</a>
Sun Fire X4470 M2 サーバー	<a href="http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=E20781-01&amp;id=homepage">http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=E20781-01&amp;id=homepage</a>
Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.0	<a href="http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=E19860-01&amp;id=homepage">http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=E19860-01&amp;id=homepage</a>

このドキュメントに関するフィードバックは、次の Web サイトから送信できます。

(<http://www.oraclesurveys.com/se.ashx?s=25113745587BE578>)



---

## サポートとトレーニング

これらの Web サイトでは追加リソースを提供しています。

- サポート (<https://support.oracle.com>)
- トレーニング (<https://education.oracle.com>)



部

I

x86 サーバーへの Linux ソフトウェアのインストール

ここでは Oracle の Sun Fire X4470 M2 サーバーに Linux オペレーティングシステムをインストールする方法についてのトピックをリストします。

説明	リンク:
初心者または経験を積んだユーザー : Oracle Hardware Installation Assistant を使用して、Linux オペレーティングシステムの補助付きインストールを実行します。Oracle Hardware Installation Assistant は適切なシステムドライバとプラットフォームに固有のソフトウェアを提供します。	<a href="#">第 1 章</a> Oracle Hardware Installation Assistant を利用した OS のインストール
経験を積んだユーザー : Linux オペレーティングシステムと必要なシステムドライバを手動でインストールします。	<ul style="list-style-type: none"><li>• <a href="#">第 2 章</a> 概要</li><li>• <a href="#">第 3 章</a> Oracle Enterprise Linux のインストール</li><li>• <a href="#">第 4 章</a> SUSE Enterprise Linux のインストール</li><li>• <a href="#">第 5 章</a> Red Hat Enterprise Linux のインストール</li></ul>
参照情報: これらのトピックを必要に応じて参照し、Linux オペレーティングシステムのインストールを実行または完了します。	<ul style="list-style-type: none"><li>• <a href="#">付録 A</a> インストール方法</li><li>• <a href="#">付録 B</a> サポートされているオペレーティングシステム</li><li>• <a href="#">付録 C</a> 新規インストール時の BIOS のデフォルト設定</li><li>• <a href="#">付録 D</a> Tools and Drivers DVD の ISO イメージのダウンロード</li></ul>



## 第1章

# Oracle Hardware Installation Assistant を利用した OS のインストール

---

Oracle Hardware Installation Assistant はオペレーティングシステムのインストールを容易にします。Oracle Hardware Installation Assistant を使用すると、ご使用のサーバーでサポートされている Linux または Windows OS ディストリビューションメディアのライセンスを受けたコピーがあれば、すぐにインストールを開始できます。Oracle Hardware Installation Assistant がすべてのソフトウェアとサーバー固有の必須のドライバを提供します。グラフィカルなウィザードのインタフェースと柔軟なインストールオプションにより、Oracle Hardware Installation Assistant はサーバーの配備を簡単にし、配備の速度と信頼性を向上させます。

Oracle Hardware Installation Assistant を使用するには、単純にサーバーの CD ドライブ、USB フラッシュドライブ、またはネットワークイメージから Oracle Hardware Installation Assistant プログラムを起動します。利用可能な Oracle Hardware Installation Assistant の最新の更新を確認してください。使用する OS のディストリビューションをメニューから選択し、画面に表示される指示に従います。Oracle Hardware Installation Assistant はシステムをスキャンして、サーバーコンポーネントを設定するために必要なドライバがあることを確認します [1]。また、利用可能な最新のドライバを Oracle Hardware Installation Assistant から確認するオプションも用意されています。Oracle Hardware Installation Assistant は、必要なときに適切なメディア、またはOS のインストール中に必要なその他の情報 (ライセンスキーなど) の入力を要求します。

---

注 – [1] 一部のオプションカードのドライバは、サーバーにはダウンロードされますが、手動によるインストールが必要となります。Oracle Hardware Installation Assistant の機能は定期的に強化されるので、Oracle Hardware Installation Assistant の情報が記載されたページ (<http://www.oracle.com/goto/hia>) を参照し、最新の更新とサポートされる機能を確認する必要があります。

---

本章で説明するトピックは次のとおりです。

- [4 ページの「Oracle Hardware Installation Assistant の作業の概要」](#)
- [5 ページの「Oracle Hardware Installation Assistant の入手方法」](#)
- [5 ページの「Oracle Hardware Installation Assistant のドキュメントリソース」](#)

---

## Oracle Hardware Installation Assistant の作業の概要

Oracle Hardware Installation Assistant を使用して、次の作業が実行できます。

---

注 – 以降に示す、サポートされている Oracle Hardware Installation Assistant のインストールおよびリカバリ作業は、サーバーによって異なる場合があります。

---

- Oracle の Sun x86 サーバーへの Linux または Windows オペレーティングシステムのインストールの実行。Oracle Hardware Installation Assistant から適切なドライバとプラットフォームに固有のソフトウェアが提供されるため、ドライバディスクを別に作成する必要がありません。
- 内部ストレージデバイスでの RAID-0 または RAID-1 ボリュームを作成します (省略可能)。
- サーバーの OS にかかわらず、システムの Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) サービスプロセッサ (SP)、BIOS、およびストレージデバイスのファームウェアをアップグレードします (省略可能)。
- 最新のファームウェアとドライバを使用した、Oracle Hardware Installation Assistant セッションを更新します (省略可能)。
- 破損しているかアクセス不能の Oracle ILOM サービスプロセッサを回復します (省略可能)。

---

# Oracle Hardware Installation Assistant の 入手方法

Oracle Hardware Installation Assistant はほとんどの x86 Oracle サーバプラットフォームに付属しており、CD フォーマットまたは Web ダウンロードで利用できます。OS の最新のバージョンをサポートするように、定期的なアップデートを利用できます。各プラットフォームサーバ用の最新バージョンの Oracle Hardware Installation Assistant は、次の Web サイトからダウンロードできます。

(<https://support.oracle.com>)

---

# Oracle Hardware Installation Assistant の ドキュメントリソース

Oracle Hardware Installation Assistant を使用して x86 サーバに Windows または Linux オペレーティングシステムをインストールする場合は、次のドキュメントで詳細なインストール手順を参照してください。

- Oracle Hardware Installation Assistant 2.5 ユーザーズガイド x86 サーバ版  
(<http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=E19593-01&id=homepage>)





## 第2章

# はじめに

---

この章では、Linux オペレーティングシステムをサーバーに手動でインストールする方法の概要について説明します。

---

注 – この場合の「手動」とは、Oracle Hardware Installation Assistant を使用せずに、このガイドで説明する手順に従ってインストールを実行するという意味です。Oracle Hardware Installation Assistant を使用して補助付きの Linux インストールを実行する場合は、本書の[第 1 章](#)を参照してください。

---

本章で説明するトピックは次のとおりです。

- [8 ページの「サポートされる Linux オペレーティングシステム」](#)
- [9 ページの「Linux インストールの前提条件」](#)
- [10 ページの「Linux のインストール作業の概要」](#)

# サポートされる Linux オペレーティングシステム

Sun Fire X4470 M2 サーバーは、次の Linux オペレーティングシステムをサポートしています。

Linux OS	版
Oracle	x86 版 Oracle Enterprise Linux 5.5 (64 ビット) Oracle Unbreakable Enterprise Kernel for Linux
SUSE	SUSE Linux Enterprise Server (SLES) 11 SP1 (64 ビット)
RedHat	x86 版 Red Hat Enterprise Linux (RHEL) 5.5 (64 ビット) と RHEL 6.0 (64 ビット)

Sun Fire X4470 M2 サーバー上でサポートされているすべてのオペレーティングシステムの完全な更新一覧については、Sun Fire x86 ラックマウントサーバーの Web サイトにアクセスし、Sun Fire X4470 M2 サーバーのページを参照してください。

(<http://www.oracle.com/technetwork/server-storage/sun-x86/overview/index.html>)

# Linux インストールの前提条件

サーバーへの Linux オペレーティングシステムのインストールを開始する前に、次の重要な注意事項について確認してください。

表 2-1 Linux オペレーティングシステムのインストールの前提条件

要件	説明	詳細は、次を参照してください。
サーバーがセットアップされ稼働している	サーバーがラックに設置されて電源が投入され、SP との通信が確立しています。	• Sun Fire X4470 M2 サーバー設置マニュアル
Linux インストールプログラムを起動できるように配備方法が設定されている	Linux オペレーティングシステムのインストールを配備するためのガイドライン。	• <a href="#">付録 A</a>
RAID ボリュームの作成	起動ドライブを RAID 構成の一部にする場合は、ドライブで RAID ボリュームを設定する必要があります。オペレーティングシステムをインストールする前に、LSI 統合 RAID コントローラのセットアップユーティリティを使用します。	• 『LSI MegaRAID Software SAS User's Guide』 ( <a href="http://www.lsi.com/support/sun/">http://www.lsi.com/support/sun/</a> )
OS の新規インストール時の BIOS 設定の検証	Linux オペレーティングシステムをインストールする前に、BIOS が出荷時のデフォルトプロパティに設定されていることを確認するようにしてください。	• <a href="#">付録 C</a>
Linux ベンダーのドキュメント	Linux のインストールに適切なベンダーのドキュメントを入手します。 ベンダーのドキュメントを、このガイドで説明するインストール手順と一緒に使用することをお勧めします。	• ( <a href="http://www.novell.com/documentation/suse">http://www.novell.com/documentation/suse</a> ) • ( <a href="http://www.redhat.com/docs/manuals/enterprise/">http://www.redhat.com/docs/manuals/enterprise/</a> ) 注 – Oracle Linux と Oracle Unbreakable Enterprise Kernel for Linux のインストール手順については、本書の <a href="#">第 3 章</a> で説明しています。
Tools and Drivers Firmware	サーバーに付属している Tools and Drivers Firmware を用意する必要があります。	• ( <a href="http://support.oracle.com">http://support.oracle.com</a> )
最新情報の入手	『Sun Fire X4470 M2 サーバーご使用にあたって』を参照して、サポートされるオペレーティングシステムソフトウェアとパッチに関する最新情報を入手します。	• 『Sun Fire X4470 M2 サーバーご使用にあたって』

---

# Linux のインストール作業の概要

Linux オペレーティングシステムをインストールするには、次に示す作業をすべて順番に実行します。

1. Linux オペレーティングシステムのインストールメディアとドキュメントを入手します。Linux のインストールプログラムは、適切なベンダーの Web サイトからダウンロードできます。たとえば、次の Web サイトを利用できます。
  - Oracle Linux の場合: (<http://edelivery.oracle.com/linux>)
  - SUSE Linux Enterprise Server の場合: (<http://www.novell.com>)
  - Red Hat Enterprise Linux の場合: (<http://www.redhat.com>)
2. 必要であれば、オプションの Documentation and Media Kit DVD で提供される Tools and Drivers Firmware を入手するか、または、[付録 D](#) を参考にして、サーバーで使用できる最新のドライバをダウンロードします。
3. [付録 A](#) を参考にして、Linux を配備するためのインストール方法を選択し設定します。
4. 次の節で説明する手順に従って、Linux Server オペレーティングシステムの手動インストールを実行します。
  - [第 3 章](#) Oracle Linux のインストール
  - [第 4 章](#) SUSE Linux Enterprise Server のインストール
  - [第 5 章](#) Red Hat Enterprise Linux のインストール
5. 次の節で説明するオペレーティングシステムに固有の手順に従って、インストール後の作業を実行します。
  - [19 ページ](#)の「Oracle Linux インストール後の作業」
  - [32 ページ](#)の「SLES のインストール後の作業」
  - [41 ページ](#)の「RHEL インストール後の作業」

## 第3章

# Oracle Linux のインストール

---

この章では、x86 (64 ビット) 版 Oracle Linux 5 と Oracle Unbreakable Enterprise Kernel for Linux をインストールする方法について説明します。

---

注 – サーバーに Oracle Linux オペレーティングシステムをインストールする場合は、Oracle Hardware Installation Assistant を使用することを強くお勧めします。Oracle Hardware Installation Assistant を使用すると、必要に応じて、デバイスドライバをインストールできます。Oracle Hardware Installation Assistant を使用してオペレーティングシステムをインストールする方法については、[第 1 章](#)を参照してください。

---

この章では、次の項目について説明します。

- [12 ページの「Oracle Unbreakable Enterprise Kernel for Linux」](#)
- [13 ページの「ローカルメディアまたはリモートメディアを使用した Oracle Linux のインストール」](#)
- [17 ページの「PXE ネットワーク環境を使用した Oracle Linux 5 のインストール」](#)
- [19 ページの「Oracle Linux インストール後の作業」](#)
- [20 ページの「ローカルコンソールまたはリモートコンソールを使用した Oracle Unbreakable Enterprise Kernel for Linux のインストール」](#)

---

# Oracle Unbreakable Enterprise Kernel for Linux

Oracle Unbreakable Enterprise Kernel for Linux は推奨されるカーネルであり、Oracle Linux 5.5 や Red Hat Enterprise Linux 5.5 または 6.0 上にインストールできます。2.6.32 Linux カーネルに基づくこの新しいカーネルは、Oracle によって最適化されているので、安定性と最適性能が保証されています。2.6.32 メインラインカーネルに追加されたすべてのパッチはオープンソースです。

Oracle Unbreakable Enterprise Kernel for Linux は、要求のきびしい環境で安定性、信頼性、および性能の向上を実証しています。このカーネルは、Oracle の Exadata および Exalogic システムで使用されます。さらに、Oracle Unbreakable Enterprise Kernel for Linux は、Oracle が参加している Linux のすべてのベンチマーク、および Oracle の検証済み構成プログラムで現在使用されています。

Oracle Unbreakable Enterprise Kernel for Linux は、Oracle Linux 5 や Red Hat Enterprise Linux 5 または 6 上に直接インストールされるので、Linux オペレーティングシステムを新しい主要リリースにアップグレードしなくても、この新しいカーネルの利点と機能が使用できます。この新しいカーネルをインストールした後で、Red Hat Enterprise Linux カーネルに戻したり、これらの 2 つのカーネルを交互に切り替えたりするオプションも用意されています。

特に Oracle ソフトウェアを実行している場合、Oracle Unbreakable Enterprise Kernel for Linux を Linux 環境に配備することを強くお勧めします。ただし、Oracle Unbreakable Enterprise Kernel for Linux はオプションであり、Red Hat Enterprise Linux (RHEL) との厳密な互換性を求めるお客様のために、Oracle Linux には Red Hat と互換性がある (RHEL のソースコードから直接コンパイルされた) カーネルが引き続き含まれます。また、サードパーティ製のソフトウェアやハードウェアを使用するお客様には、この新しいカーネルをお勧めします。

Oracle Unbreakable Enterprise Kernel for Linux の利点と機能の詳細については、次の Web サイトを参照してください。

<http://www.oracle.com/us/technologies/linux/ubreakable-enterprise-kernel-linux-173350.html>

---

# ローカルメディアまたはリモートメディアを使用した Oracle Linux のインストール

次の手順では、Oracle Linux オペレーティングシステムのインストールをローカルまたはリモートのメディアから起動する方法について説明します。この手順では、次のいずれかのソースから Oracle Linux のインストールメディアを起動することを前提にしています。

- Oracle Linux 5.5 以降のリリースの CD または DVD セット (内蔵または外付けの CD/DVD)
- Oracle Linux 5.5 以降のリリースの ISO DVD イメージ (ネットワークリポジトリ)

---

注 – PXE 環境からインストールメディアを起動する場合は、[17 ページの「PXE ネットワーク環境を使用した Oracle Linux 5 のインストール」](#)で手順を確認してください。

---

## インストールを開始する前に

インストールを実行する前に、次の要件を満たしている必要があります。

- オペレーティングシステムをインストールするための前提条件をすべて満たしている。これらの前提条件については、[第 2 章](#)を参照してください。
- インストールを開始する前に、使用するインストール方法 (コンソール、起動メディア、インストール先など) を決定して、設定が完了している。これらの設定に関する要件については、[付録 A](#)を参照してください。

この手順の完了後、この章で後述する、インストール後に必要な作業を確認して実行する必要があります。詳細は、[19 ページの「Oracle Linux インストール後の作業」](#)を参照してください。Oracle Linux 5.5 以降のディストリビューション上に Oracle Unbreakable Enterprise Kernel for Linux をインストールすることもできます。詳細は、[20 ページの「ローカルコンソールまたはリモートコンソールを使用した Oracle Unbreakable Enterprise Kernel for Linux のインストール」](#)を参照してください。

## ▼ ローカルメディアまたはリモートメディアを使用した Oracle Linux 5 のインストール

1. インストールメディアが起動可能な状態であることを確認します。
  - ディストリビューション CD/DVD を使用する場合。ローカルまたはリモートの USB CD/DVD-ROM ドライブに、Oracle Linux 5 ディストリビューションメディアの起動ディスク (CD #1 または単一の DVD) を挿入します。
  - ISO イメージを使用する場合。ISO イメージが使用可能であり、Oracle ILOM リモートコンソールアプリケーションで起動ディスクイメージ (CD #1 または DVD) が選択されていることを確認します (「Device」メニュー --> 「CD-ROM Image」)。
  - インストールメディアの設定方法については、[47 ページの「インストール起動メディア」](#)を参照してください。
2. サーバーの電源をリセットします。

たとえば、次のように表示されます。

  - Oracle ILOM Web インタフェースで、「Remote Control」--> 「Remote Power Control」タブを選択し、次に「Select Action」リストボックスから「Reset」を選択します。
  - ローカルサーバーの前面パネルにある電源ボタンを (約 1 秒) 押してサーバーの電源を切り、もう一度電源ボタンを押して電源を入れます。
  - サーバー SP の Oracle ILOM CLI で、次のように入力します。**reset /SYS** BIOS 画面が表示されます。

---

注 – 次のイベントがすぐに発生するため、以下のステップでは集中する必要があります。表示される時間が短いため、メッセージを注意して観察してください。スクロールバーが表示されないように画面のサイズを拡大してもかまいません。

---

3. BIOS 画面で、F8 キーを押して、Oracle Linux のインストールで使用する一時起動デバイスを指定します。

「Please Select Boot Device (起動デバイスを選択してください)」メニューが表示されます。
4. 「Boot Device (起動デバイス)」メニューで、最初の起動デバイスとして外付けまたは仮想 CD/DVD デバイスを選択して、Enter キーを押します。

「Boot Device (起動デバイス)」メニューに表示されるデバイスの文字列は、デバイスタイプ、スロットインジケータ、および製品 ID で構成されています。

数秒後、Oracle Linux 5 インストールのスプラッシュ画面が表示されます。スプラッシュ画面の下半分に、説明、ファンクションキー、および起動プロンプトが表示されます。



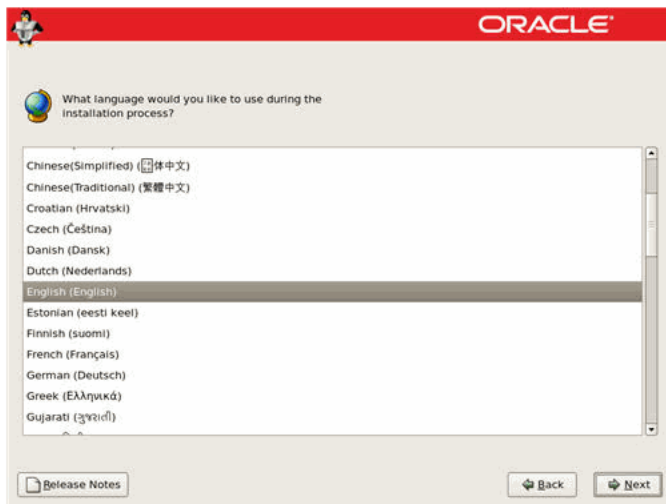
5. Oracle Linux のスプラッシュ画面で、Enter キーを押して標準的な対話式インストールを続けます。

または、テキストモードで、次のコマンドを入力します。

```
boot: linux text
```

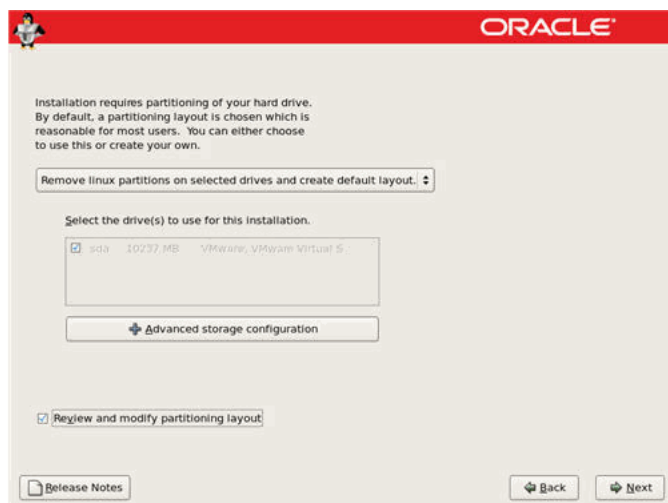


6. 「Language (言語の選択)」画面で、適切な言語を選択して、「次へ (Next)」をクリックします。



「Keyboard Type (キーボードタイプ)」画面が表示されます。

7. 「Keyboard Type (キーボードタイプ)」画面で、適切なキーボード設定を選択してから、「Next (次へ)」をクリックします。  
「Installation Method (インストール方法)」画面が表示されます。
8. 「Installation Method (インストール方法)」画面で、適切なインストール方法 (「Local CDROM」または「NFS Image」) を選択し、「OK」をクリックします。  
「CD Found (CD が見つかりました)」画面が表示されます。
9. 「CD Found (CD が見つかりました)」画面で、「Skip (スキップ)」をクリックします。  
「Oracle Linux 5」画面が表示されます。
10. 「Oracle Linux 5」画面で、「Next (次へ)」をクリックします。  
「Installation Number (インストール番号)」ダイアログが表示されます。
11. 「Installation Number (インストール番号)」ダイアログで、インストール番号を入力するか「Skip entering installation number」をクリックし、「OK」をクリックします。  
「Disk Partition Setup (ディスクパーティション設定)」画面が表示されます。
12. 「Disk Partition Setup (ディスクパーティション設定)」画面で、次の手順に従います。
  - a. 「Remove Linux partition on selected drives and create default layout (選択したドライブの linux パーティションを削除して、デフォルトのレイアウトを作成)」のオプションを選択するか、Disk Druid の「Create custom layout (カスタムレイアウトを作成)」オプションを使用して手動でディスクをパーティションに分割し、「Next (次へ)」をクリックします。



- b. Oracle Linux のディスクパーティション設定の画面に表示される手順を参照して、必要に応じてディスクをパーティションに分割します。

---

注 – Oracle Solaris OS または Oracle VM がディスクにインストール済みの場合は、ディスクをパーティションに分割してインストール済みの OS を削除するか、インストール済みの OS を削除せずにディスクをパーティションに分割し、デュアルブートオペレーティングシステムをサポートすることもできます。

---

13. 画面上の指示に従って、Oracle Linux インストールの基本設定を続行します。

---

注 – Oracle Linux インストールの詳細情報は、次の Web サイトにある『Red Hat Enterprise Linux 5: Installation Guide』を参照してください。  
(<http://www.redhat.com/docs/manuals/enterprise>)

---

14. Oracle Linux インストールの基本設定が完了したら、次に示すインストール後の作業を実行します。
- a. 19 ページの「Oracle Linux インストール後の作業」の説明に従って、インストール後の作業を実行します。
  - b. (省略可能) Oracle Linux 5 Update 5 オペレーティングシステム上に Oracle Unbreakable Enterprise Kernel for Linux をインストールします。  
インストール手順については、20 ページの「ローカルコンソールまたはリモートコンソールを使用した Oracle Unbreakable Enterprise Kernel for Linux のインストール」を参照してください。

---

## PXE ネットワーク環境を使用した Oracle Linux 5 のインストール

この節では、PXE ネットワーク環境から Oracle Linux 5 を起動する方法について説明します。ここでは、次のいずれかのソースからインストールメディアを起動することを前提にしています。

- Oracle Linux 5.5 CD または DVD セット (内蔵または外付けの CD/DVD)
- Oracle Linux 5.5 ISO DVD イメージまたは KickStart イメージ (ネットワークリポジトリ)

---

注 – KickStart は自動インストールツールです。システム管理者はこのツールを利用して、通常は一般的な Oracle Linux のインストール中に入力される、インストールと設定のパラメータの一部またはすべての設定値を含めた、単一のイメージを作成できます。通常、KickStart イメージは 1 つのネットワークサーバー上に配置され、インストール時に複数のシステムによって読み取られます。

---

## 取り付けを開始する前に

Oracle Linux PXE インストールを実行する前に、次の要件を満たす必要があります。

- KickStart イメージを使用してインストールを行う場合、次の操作が必要です。
  - KickStart ファイルを作成します。
  - KickStart ファイルを含む起動メディアを作成するか、またはネットワーク上で KickStart ファイルを使用できるようにします。
- PXE を使用してネットワーク経由でインストールメディアを起動するには、次の操作が必要です。
  - ネットワーク (NFS、FTP、HTTP) サーバーを、インストールツリーをエクスポートできるように設定します。
  - TFTP サーバーで PXE 起動に必要なファイルを設定します。
  - PXE 設定から起動するように、サーバーの MAC ネットワークポートアドレスを設定します。
  - DHCP (Dynamic Host Configuration Protocol) を設定します。

次の Web サイトにある『Red Hat Enterprise Linux 5: System Administration Guide』の PXE ネットワークのインストール手順に従ってください。

(<http://www.redhat.com/docs>)

## ▼ PXE ネットワーク起動を使用した Oracle Linux 5 のインストール

1. PXE ネットワーク環境が正しく設定され、Oracle Linux のインストールメディアを PXE 起動で使用できることを確認します。
2. サーバーの電源をリセットします。  
たとえば、次のように表示されます。
  - **Oracle ILOM Web インタフェース**で、「Remote Control」-->「Remote Power Control」タブを選択し、次に「Select Action」リストボックスから「Reset」を選択します。
  - **Oracle ローカルサーバー**のフロントパネルにある電源ボタンを押して (約 1 秒) サーバーの電源を切り、もう一度電源ボタンを押してサーバーの電源を入れます。
  - **サーバー SP の ILOM CLI**で、次のように入力します。**reset /SYS**  
BIOS 画面が表示されます。

---

注 - 次のイベントがすぐに発生するため、以下のステップでは集中する必要があります。表示される時間が短いため、メッセージを注意して観察してください。スクロールバーが表示されないように画面のサイズを拡大してもかまいません。

---

3. BIOS 画面で、F8 キーを押して、一時起動デバイスを指定します。  
「Please Select Boot Device (起動デバイスを選択してください)」メニューが表示され、使用可能な起動デバイスが一覧表示されます。
4. 「Boot Device (起動デバイス)」メニューで、PXE ネットワークインストールサーバーと通信するように設定されたネットワークポートを選択します。  
ネットワークブートローダーが読み込まれ、起動プロンプトが表示されます。数秒後、インストールカーネルの読み込みが開始されます。
5. インストールを完了するには、14 ページの「ローカルメディアまたはリモートメディアを使用した Oracle Linux 5 のインストール」の手順 5 を参照してください。

---

## Oracle Linux インストール後の作業

Oracle Linux のインストールを完了したら、次に示すインストール後の作業を確認し、使用しているシステムで該当する作業を必要に応じて実行するようにしてください。

- 19 ページの「TPM のサポートの設定」
- 19 ページの「Oracle Linux の登録と自動更新の有効化」

### TPM のサポートの設定

Oracle Linux に用意されている Trusted Platform Module (TPM) 機能セットを使用する場合は、この機能をサポートするようにサーバーを設定する必要があります。手順については、サーバーのサービスマニュアルを参照してください。

- Sun Fire X4470 M2 サーバーサービスマニュアル

---

注 – TPM を使用すると、サーバーの TPM セキュリティーハードウェアを管理できます。この機能の実装については、Oracle Linux に用意されている TPM のドキュメントを参照してください。

---

### Oracle Linux の登録と自動更新の有効化

Oracle Linux をインストールしたあと、システムを Oracle に登録してサブスクリプションを有効にし、ソフトウェアの自動更新を受信するようにしてください。詳細は、次の Web サイトにある Oracle Linux サポートを参照してください。

(<http://www.oracle.com/support/purchase.html>)

---

# ローカルコンソールまたはリモートコンソールを使用した Oracle Unbreakable Enterprise Kernel for Linux のインストール

## インストールを開始する前に

Oracle Unbreakable Enterprise Kernel for Linux をインストールする前に、Oracle Linux 5.5 または Red Hat Enterprise Linux (RHEL) 5.5 または 6.0 をサーバーにインストールしている必要があります。

### ▼ ローカルコンソールまたはリモートコンソールを使用した Oracle Unbreakable Enterprise Kernel for Linux のインストール

1. Oracle Unbreakable Enterprise Kernel for Linux をインストールする前に、システムで Oracle Linux 5.5 または Red Hat Enterprise Linux 5.5 または 6.0 が動作していることを確認します。
2. システムで動作している OS に応じて、適切なリポジトリファイルのダウンロードおよび編集を実行します。
  - Oracle Linux 5.5 が動作している場合、次の手順を実行して、Oracle Linux 5 Yum リポジトリファイルのダウンロードと編集を行います。
    - a. `# cd /etc/yum.repos.d`
    - b. `# wget http://public-yum.oracle.com/public-yum-el5.repo`
    - c. エディタで `/etc/yum.repos.d/etc/public-yum-el5.repo` ファイルを開きます。
    - d. `[el5_u5_base]` スタンザと `[ol5_u5_base]` スタンザを編集し、次のように `enable=0` を `enable=1` に変更します。

```
[el5_u5_base]
name=Enterprise Linux $releasever U5 - $basearch - base
baseurl=http://publicyum.
oracle.com/repo/EnterpriseLinux/EL5/5/base/$basearch/
gpgkey=http://public-yum.oracle.com/RPM-GPG-KEY-oracle-el5
gpgcheck=1
```

```
enable=1
```

```
[ol5_u5_base]  
name=Oracle Linux $releasever - U5 - x86_64 - base  
baseurl=http://publicyum.  
oracle.com/repo/OracleLinux/OL5/5/base/x86_64/  
gpgkey=http://public-yum.oracle.com/RPM-GPG-KEY-oracle-el5  
gpgcheck=1  
enable=1
```

- RHEL 6 が動作している場合、次の手順を実行して、Oracle Linux 6 Yum リポジトリファイルのダウンロードと編集を行います。
  - a. # **cd /etc/yum.repos.d**
  - b. # **wget http://public-yum.oracle.com/public-yum-ol6.repo**
  - c. エディタで /etc/yum.repos.d/etc/public-yum-ol6.repo ファイルを開きます。
  - d. [ol6\_ga\_base] スタンザを編集し、次のように enable=0 を enable=1 に変更します。

```
[ol6_ga_base]  
name=Oracle Linux 6 GA - $basearch - base  
baseurl=http://public-  
yum.oracle.com/repo/OracleLinux/OL6/0/base/$basearch/  
gpgkey=http://public-yum.oracle.com/RPM-GPG-KEY-oracle-ol6  
gpgcheck=1  
name=Oracle Linux 6 GA - $basearch - base  
enable=1
```

### 3. システムカーネルを更新するには、次のいずれかを実行します。

- Oracle Linux 5.5 が動作している場合、次の手順を実行して、システムカーネルを更新します。
  - システムカーネルを Oracle Unbreakable Enterprise Kernel for Linux に更新するには、次のコマンドを入力します。  
# **yum install kernel**  
または
  - システムカーネルを Oracle Unbreakable Enterprise Kernel for Linux に更新し、関連するすべての推奨パッケージをアップグレードするには、次のコマンドを入力します。  
# **yum install oracle-linux**

- RHEL 6 が動作している場合、次の手順を実行して、システムカーネルを更新します。
  - システムカーネルを Oracle Unbreakable Enterprise Kernel for Linux に更新するには、次のコマンドを入力します。  
**# yum install kernel-uek**  
または
  - システムカーネルを Oracle Unbreakable Enterprise Kernel for Linux に更新し、関連するすべての推奨パッケージをアップグレードするには、次のコマンドを入力します。  
**# yum update**
- 4. 新しくインストールした Oracle Unbreakable Enterprise Kernel for Linux を実行するには、システムを再起動します。

---

注 – Oracle Unbreakable Enterprise Kernel for Linux の詳細は、次の Web サイトにあるリリースノートを参照してください。 (<http://oss.oracle.com/el5/docs>)

---



## 第4章

# SUSE Linux Enterprise Server のインストール

---

この章では、x86 (64 ビット) 版 SUSE Linux Enterprise Server (SLES) 11 SP1 (またはそれ以降のリリース) を Sun Fire X4470 M2 サーバーにインストールする方法について説明します。

---

**注** – サーバーに SUSE Linux Enterprise Server オペレーティングシステムをインストールする場合は、Oracle Hardware Installation Assistant を使用することを強くお勧めします。Oracle Hardware Installation Assistant を使用すると、必要に応じて、デバイスドライバをインストールできます。Oracle Hardware Installation Assistant を使用してオペレーティングシステムをインストールする方法については、[第 1 章](#)を参照してください。

---

この章では、次の項目について説明します。

- [24 ページ](#)の「ローカルメディアまたはリモートメディアを使用した SLES 11 SP1 のインストール」
- [30 ページ](#)の「PXE ネットワーク環境を使用した SLES 11 SP1 のインストール」
- [32 ページ](#)の「SLES のインストール後の作業」

# ローカルメディアまたはリモートメディアを使用した SLES 11 SP1 のインストール

次の手順では、SLES オペレーティングシステムをローカルメディアまたはリモートメディアから起動する方法について説明します。この手順では、次のいずれかのソースから SLES のインストールメディアを起動することを前提とします。

- SLES 11 SP1 以降のリリースの CD または DVD セット (内蔵または外付けの CD/DVD)
- SLES 11 SP1 以降のリリースの ISO DVD イメージ (ネットワークリポジトリ)

---

注 – PXE 環境からインストールメディアを起動する場合は、[30 ページの「PXE ネットワーク環境を使用した SLES 11 SP1 のインストール」](#)で起動手順を確認してください。

---

ローカルまたはリモートのメディアを使用して SLES をインストールする手順については、次のトピックを参照してください。

- [24 ページの「インストールを開始する前に」](#)
- [25 ページの「ローカルメディアまたはリモートメディアを使用した SLES 11 SP1 のインストール」](#)

SLES のインストールについては、次の Novell の Web サイトにある SUSE Linux Enterprise Server のドキュメントコレクションを参照してください。

(<http://www.novell.com/documentation/suse>)

## インストールを開始する前に

インストールを実行する前に、次の要件を満たしている必要があります。

- このオペレーティングシステムをインストールするための前提条件をすべて満たしている。これらの前提条件については、[第 2 章](#)を参照してください。
- インストールを開始する前に、SLES インストールメディアを起動するためのインストール方法 (コンソール、起動メディア、インストール先など) を決定して、設定が完了している。これらの設定に関する要件については、[付録 A](#)を参照してください。

この手順の完了後、この章で後述する、インストール後に必要な作業を確認して実行する必要があります。詳細は、[32 ページの「SLES のインストール後の作業」](#)を参照してください。

## ▼ ローカルメディアまたはリモートメディアを使用した SLES 11 SP1 のインストール

### 1. インストールメディアを起動できることを確認します。

- ディストリビューション CD/DVD を使用する場合。ローカルまたはリモートの USB CD/DVD-ROM ドライブに、SLES 11 SP 起動ディスク (CD #1 または DVD) を挿入します。
- ISO イメージを使用する場合。SLES 11 SP1 ISO イメージが使用可能であり、Oracle ILOM リモートコンソールアプリケーションで起動ディスクイメージ (CD #1 または DVD) が選択されていることを確認します (「Devices」メニュー --> 「CD-ROM Image」)。

インストールメディアを設定する方法については、[付録 A](#) を参照してください。

### 2. サーバーの電源をリセットします。

たとえば、次のように表示されます。

- **Oracle ILOM Web インタフェース**で、「Remote Control」-->「Remote Power Control」タブの順に選択し、次に「Select Action」リストボックスから「Reset」を選択します。
- **ローカルサーバー**の前面パネルにある電源ボタンを押して (約 1 秒) サーバーの電源を切り、もう一度電源ボタンを押してサーバーの電源を入れます。
- **サーバー SP 上の Oracle ILOM CLI**で、次のように入力します。**reset /SYS** BIOS 画面が表示されます。

---

注 - 次のイベントがすぐに発生するため、以下のステップでは集中する必要があります。表示される時間が短いため、メッセージを注意して観察してください。スクロールバーが表示されないように画面のサイズを拡大してもかまいません。

---

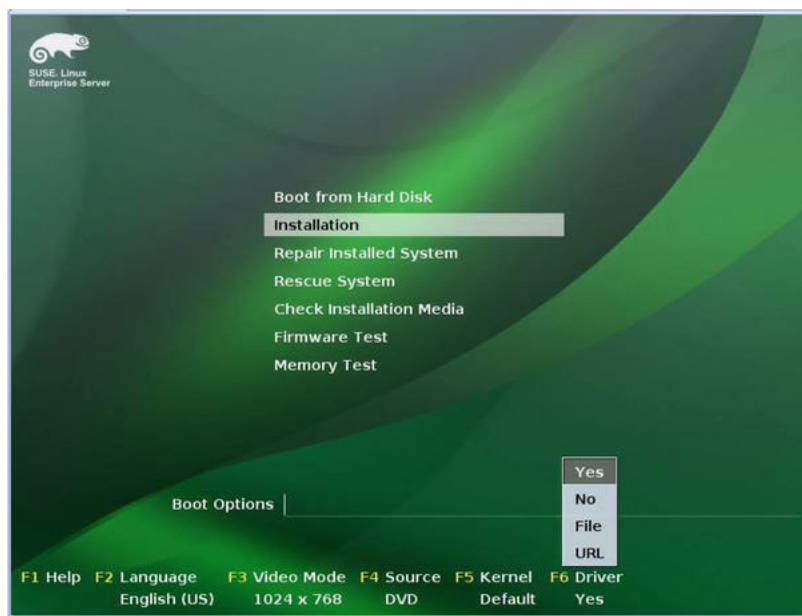
### 3. BIOS 画面で、F8 キーを押して、SLES のインストールで使用する一時起動デバイスを指定します。

「Please Select Boot Device (起動デバイスを選択してください)」メニューが表示されます。

4. 「Boot Device (起動デバイス)」メニューで、最初の起動デバイスとして外付けまたは仮想 CD/DVD デバイスを選択して、Enter キーを押します。

「Boot Device (起動デバイス)」メニューに表示されるデバイスの文字列は、デバイスタイプ、スロットインジケータ、および製品 ID 文字列で構成されています。

数秒後、最初の SUSE 起動画面が表示されます。



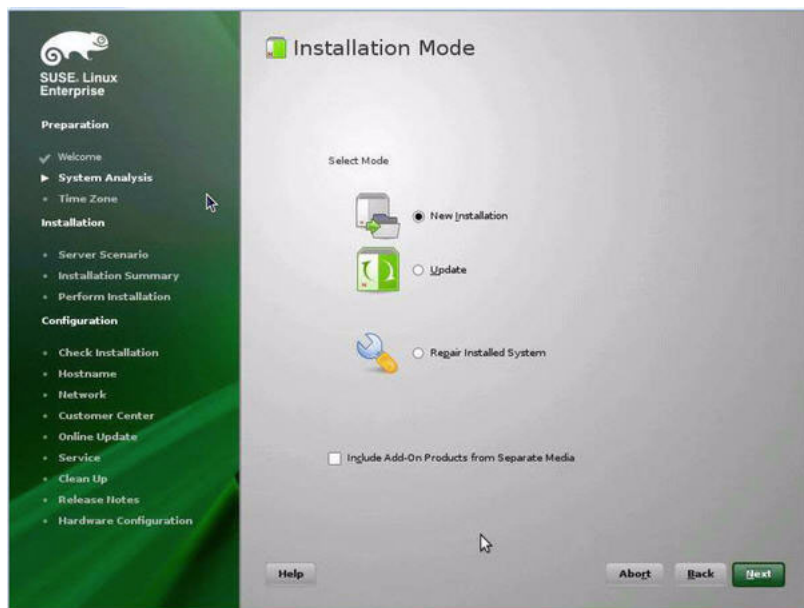
5. SUSE の初期インストール起動画面で、2 番目のオプション「Installation (インストール)」を選択し、Enter キーを押します。

「Welcome (ようこそ)」画面が表示されます。

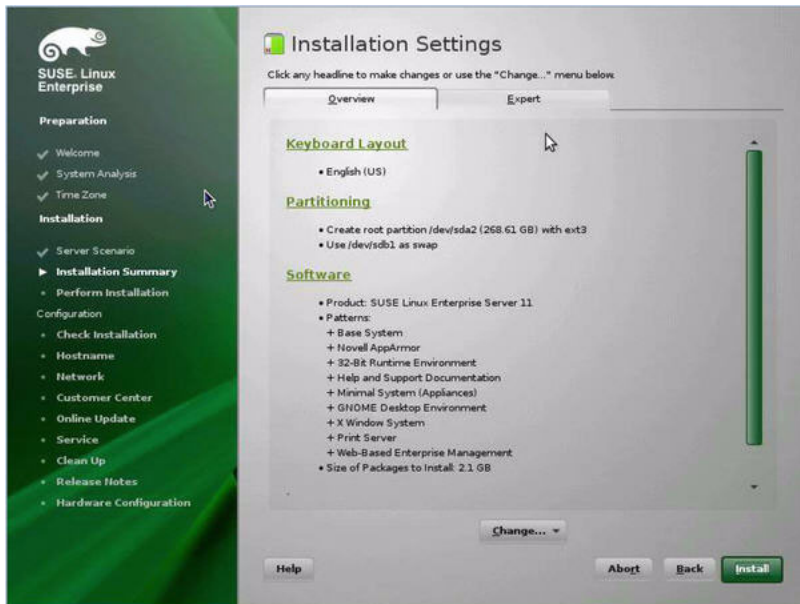
6. 「Welcome (ようこそ)」画面で、次の手順を実行します。

- 適切な言語を選択します。
- キーボードレイアウトを選択します。
- 使用許諾契約を読み、「I Agree to the License Terms」のチェックボックスをオンにします。
- 「Next (次へ)」をクリックします。

「System Probing (システムプローブ)」画面に進行状況バーが表示されます。システムの分析が完了したら、「Yast Installation Mode (Yast インストールモード)」画面が表示されます。



7. 「Installation Mode (インストールモード)」画面で「New Installation (新規インストール)」を選択して、「Next (次へ)」をクリックします。  
「Clock and Time Zone (時刻とタイムゾーン)」画面が表示されます。
8. 「Clock and Time Zone (時刻とタイムゾーン)」画面で、適切な地域とタイムゾーンを選択して、「Next (次へ)」をクリックします。  
「Server Base Scenario (サーバーベースシナリオ)」画面が表示されます。
9. 「Server Base Scenario (サーバーベースシナリオ)」画面で「Physical Machine (物理マシン)」を選択し、「Next (次へ)」をクリックします。  
「Installation Settings (インストール設定)」画面が表示されます。



10. 「Installation Settings (インストール設定)」画面で、次の手順を実行します。

- 「Next (次へ)」をクリックして、表示されているインストール設定を受け入れます。  
または
- 「Change (変更)」をクリックして設定を編集し、「Next (次へ)」をクリックしてインストール設定を受け入れます。

---

注 – カスタムパーティションの作成方法、またはその他のインストール設定の編集方法については、Novell SLES 11 のドキュメントを参照してください。

---

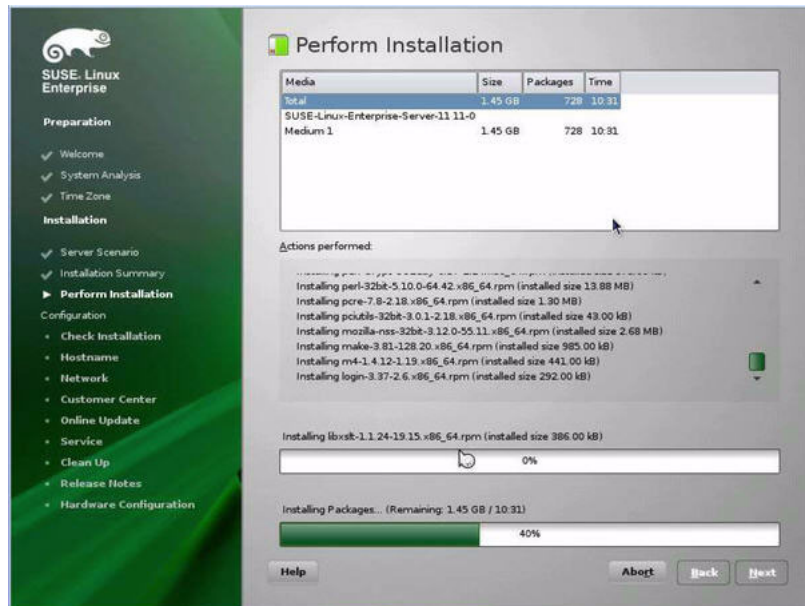
「Confirm Package License (パッケージライセンスの確認)」画面が表示されます。

11. 「Confirm Package License (パッケージライセンスの確認)」画面で、次の手順を実行します。

- 使用許諾契約を読みます。
- 「I Agree (同意する)」をクリックします。
- 「Install (インストール)」をクリックします。

「Confirm Installation (インストールの確認)」ダイアログが表示されます。

12. 「Confirm Installation (インストールの確認)」ダイアログで、メッセージを読み、「Install (インストール)」をクリックしてインストールを開始します。  
「Perform Installation (インストールの実行)」ダイアログが表示されます。



13. SLES 11 OS のすべてのファイルがインストールされてシステムが再起動されるまで、インストールの基本設定を続行します。
14. 基本的なインストールの設定が完了したら、SLES 11 ドキュメントを参照して次の作業を実行します。
- 使用するアカウントのパスワードを作成します。
  - インターネットアクセスおよびネットワークの設定を行い、テストします。
  - OS を登録して、利用できる最新のアップデートをオペレーティングシステムにダウンロードします。
15. この章の後半で説明する、インストール後の作業を確認し、必要に応じて実行します。
- 詳細は、[32 ページの「SLES のインストール後の作業」](#)を参照してください。

---

# PXE ネットワーク環境を使用した SLES 11 SP1 のインストール

ここでは、PXE ネットワーク環境から SLES を起動する方法について説明します。この手順では、次のいずれかのソースからインストールメディアを起動することを前提にしています。

- SLES 11 SP1 以降のリリースの CD または DVD セット (内蔵または外付けの CD/DVD)
- SLES 11 SP1 以降のリリースの ISO DVD イメージまたは AutoYaST イメージ (ネットワークリポジトリ)

AutoYaST を利用すると、SLES オペレーティングシステムを複数のシステムにインストールできます。AutoYaST を使用した自動インストールの準備方法については、次の Web サイトにある Novell SUSE のマニュアルセットを参照してください。

(<http://www.novell.com/documentation/suse>)

## インストールを開始する前に

PXE ネットワーク起動環境から SLES のインストールを実行する前に、次の要件を満たしてください。

- AutoYaST を使用してインストールを行う場合は、次の操作が必要です。
  - AutoYaST プロファイルを作成します。  
SUSE Linux Enterprise (10 または 11) ドキュメントの AutoYaST インストール手順に従います。
- PXE を使用してネットワーク経由でインストールメディアを起動するには、次の操作が必要です。
  - インストールツリーをエクスポートするようにネットワーク (NFS、FTP、HTTP) サーバーを設定します。
  - TFTP サーバーで PXE 起動に必要なファイルを設定します。
  - PXE 設定から起動するように Sun Fire X4470 M2 サーバーの MAC ネットワークポートアドレスを設定します。
  - DHCP (Dynamic Host Configuration Protocol) を設定します。

SUSE Linux Enterprise のドキュメントにある、ネットワーク経由での SUSE メディア起動のための設定手順に従います。

この手順の完了後、[32 ページの「SLES のインストール後の作業」](#)で説明する作業が必要となる場合があります。



## ▼ PXE ネットワーク起動を使用した SLES 11 SP1 のインストール

1. PXE ネットワーク環境が正しく設定され、SLES のインストールメディアを PXE 起動で使用できることを確認します。

2. サーバーの電源を入れ直します。

たとえば、次のように表示されます。

- **Oracle ILOM Web インタフェース**で、「Remote Control」->「Remote Power Control」タブの順に選択し、次に「Select Action」リストボックスから「Reset」を選択します。
- **ローカルサーバー**の前面パネルにある電源ボタンを押して (約 1 秒) サーバーの電源を切り、もう一度電源ボタンを押してサーバーの電源を入れます。
- **サーバー SP の Oracle ILOM CLI** で、次のように入力します。**reset /SYS**  
BIOS 画面が表示されます。

---

注 - 次のイベントはすぐに発生するため、次の手順では注意する必要があります。表示される時間が短いため、メッセージを注意して観察してください。スクロールバーが表示されないように画面のサイズを拡大してもかまいません。

---

3. F8 キーを押して、一時起動デバイスを指定します。

「Please Select Boot Device (起動デバイスを選択してください)」メニューが表示され、使用可能な起動デバイスが一覧表示されます。

4. 「Boot Device (起動デバイス)」メニューで、使用しているネットワークインストールサーバーと通信できるように設定されている PXE インストール起動デバイス (物理ポート) を選択して、Enter キーを押します。

ネットワークブートローダーが読み込まれ、起動プロンプトが表示されます。タイムアウトしてインストールカーネルの読み込みが開始されるまで 5 秒待ちます。

最初の SUSE Linux 起動画面が表示されます。

5. インストールを続けるには、[25 ページの「ローカルメディアまたはリモートメディアを使用した SLES 11 SP1 のインストール」](#)の手順 5 からの手順を実行します。

---

# SLES のインストール後の作業

SLES インストールを完了したら、次に示すインストール後の作業を確認し、必要に応じて、使用しているシステムに該当する作業を実行します。

- [32 ページの「SLES オペレーティングシステムの更新」](#)
- [33 ページの「TPM のサポートの設定」](#)

## SLES オペレーティングシステムの更新

SLES OS のインストールメディアには、最新バージョンのオペレーティングシステムが含まれていない場合があります。次の手順では、サーバーの SLES OS を更新する方法について説明します。

### ▼ SLES オペレーティングシステムの更新

1. SLES サーバーにスーパーユーザーとしてログインします。
2. 次のコマンドを入力して、YaST オンラインアップデートを実行します。

# **you**

YaST はテキストモードとグラフィカルモードの両方で動作します。ここでの指示は、両方に適用されます。

3. サーバーがネットワークファイアウォールで保護されていて、インターネットにアクセスするためにプロキシサーバーを使用する必要がある場合は、まず正しいプロキシ情報で YaST を設定します。
  - a. 「Network Services (ネットワークサービス)」タブを選択してから、右側の「Proxy (プロキシ)」画面を選択します。HTTP フィールドと HTTPS フィールドの両方に、正しいプロキシの URL を入力します。

---

**注** – ネットワーク HTTP または HTTPS プロキシを介してオンラインアップデートサービスを正常に機能させるために、次の設定手順を実行します。

---

- b. YaST ユーティリティを終了して、次のコマンドを実行します。

```
run set-prefs proxy-url proxy_URL
```

*proxy\_URL* は、プロキシサーバーの完全修飾 URL です (たとえば、`http://proxy.yourdomain:3128/`)。

- c. コマンドの実行の成功後に、YaST を再度起動します。

#### 4. Novell Customer Center に登録します。

---

**注** – Novell Customer Center のユーザー名とパスワード、および SLES 製品のアクティベーションコードが必要です。

---

- a. 「Software (ソフトウェア)」タブを選択します。
  - b. 「Novell Customer Center Configuration (Novell Customer Center の設定)」を選択し、指示に従います。
5. 登録後、「Online Update (オンラインアップデート)」タブを選択して、ソフトウェアのアップデートを実行します。

## TPM のサポートの設定

SLES に用意されている Trusted Platform Module (TPM) 機能セットを使用する場合は、この機能をサポートするようにサーバーを設定する必要があります。手順については、各サーバーモデルのサービスマニュアルを参照してください。

- 『Sun Fire X4470 M2 サーバーサービスマニュアル』

---

**注** – TPM を使用すると、サーバーの TPM セキュリティーハードウェアを管理できます。この機能の実装については、SUSE Linux Enterprise Server に用意されている TPM のドキュメントを参照してください。

---



## 第5章

# Red Hat Enterprise Linux のインストール

---

この章では、x86 (64 ビット) 版 Red Hat Enterprise Linux (RHEL) 5.5 および 6.0 と Oracle Unbreakable Enterprise Kernel for Linux をインストールする方法について説明します。

---

注 – サーバーに RHEL オペレーティングシステムをインストールする場合は、Oracle Hardware Installation Assistant を使用することを強くお勧めします。Oracle Hardware Installation Assistant を使用すると、必要に応じて、デバイスドライバをインストールできます。Oracle Hardware Installation Assistant を使用してオペレーティングシステムをインストールする方法については、[第 1 章](#)を参照してください。

---

この章では、次の項目について説明します。

- [36 ページの「ローカルメディアまたはリモートメディアを使用した RHEL 5.5 または 6.0 のインストール」](#)
- [39 ページの「PXE ネットワーク環境を使用した RHEL 5.5 または 6.0 のインストール」](#)
- [41 ページの「RHEL インストール後の作業」](#)
- [41 ページの「Oracle Unbreakable Enterprise Kernel for Linux のインストール」](#)

---

# ローカルメディアまたはリモートメディアを使用した RHEL 5.5 または 6.0 のインストール

次の手順では、RHEL 5.5 および 6.0 オペレーティングシステムのインストールをローカルまたはリモートのメディアから起動する方法について説明します。この手順では、次のいずれかのソースから RHEL のインストールメディアを起動することを前提にしています。

- RHEL 5.5 または 6.0 以降のリリースの CD または DVD セット (内蔵または外付けの CD/DVD)
- RHEL 5.5 または 6.0 以降のリリースの ISO DVD イメージ (ネットワークリポジトリ)

---

注 – PXE 環境からインストールメディアを起動する場合は、[39 ページの「PXE ネットワーク環境を使用した RHEL 5.5 または 6.0 のインストール」](#)で手順を確認してください。

---

RHEL のインストール方法については、次の Web サイトで RHEL マニュアルセットを参照してください。

(<http://www.redhat.com/docs/manuals/enterprise/>)

## インストールを開始する前に

インストールを実行する前に、次の要件を満たしている必要があります。

- オペレーティングシステムをインストールするための前提条件をすべて満たしている。これらの前提条件については、[第 2 章](#)を参照してください。
- インストールを開始する前に、使用するインストール方法 (コンソール、起動メディア、インストール先など) を決定して、設定が完了している。これらの設定に関する要件については、[付録 A](#)を参照してください。

この手順の完了後、この章で後述する、インストール後に必要な作業を確認して実行する必要があります。詳細は、[41 ページの「RHEL インストール後の作業」](#)を参照してください。

## ▼ ローカルメディアまたはリモートメディアを使用した RHEL 5.5 または 6.0 のインストール

1. インストールメディアを起動できることを確認します。
  - ディストリビューション CD/DVD を使用する場合。ローカルまたはリモートの USB CD/DVD-ROM ドライブに、Red Hat 5.5 または 6.0 ディストリビューションメディアの起動ディスク (CD #1 または単一の DVD) を挿入します。
  - ISO イメージを使用する場合。ISO イメージが使用可能であり、Oracle ILOM リモートコンソールアプリケーションで起動ディスクイメージ (CD #1 または DVD) が選択されていることを確認します (「Device」メニュー --> 「CD-ROM Image」)。
  - インストールメディアを設定する方法については、[付録 A](#) を参照してください。
2. サーバーの電源をリセットします。

たとえば、次のように表示されます。

  - **Oracle ILOM Web インタフェース**で、「Remote Control」--> 「Remote Power Control」タブを選択し、次に「Select Action」リストボックスから「Reset」を選択します。
  - ローカルサーバーの前面パネルにある電源ボタンを押して (約 1 秒) サーバーの電源を切り、もう一度電源ボタンを押してサーバーの電源を入れます。
  - サーバー SP の **Oracle ILOM CLI** で、次のように入力します。**reset /SYS** BIOS 画面が表示されます。

---

注 – 次のイベントがすぐに発生するため、以下のステップでは集中する必要があります。表示される時間が短いため、メッセージを注意して観察してください。スクロールバーが表示されないように画面のサイズを拡大してもかまいません。

---

3. BIOS 画面で、F8 キーを押して、RHEL のインストールで使用する一時起動デバイスを指定します。

「Please Select Boot Device (起動デバイスを選択してください)」メニューが表示されます。
4. 「Boot Device (起動デバイス)」メニューで、最初の起動デバイスとして外付けまたは仮想 CD/DVD デバイスを選択し、Enter キーを押します。

「Boot (起動)」メニューに表示されるデバイスの文字列は、デバイスタイプ、スロットインジケータ、および製品 ID 文字列で構成されています。

数秒後、RHEL インストールのスプラッシュ画面が表示されます。スプラッシュ画面の下半分に、説明、ファンクションキー、および起動プロンプトが表示されます。

5. Red Hat Enterprise Linux のスプラッシュ画面で、「Next (次へ)」をクリックして標準的な対話式インストールを続けます。

または、テキストモードで、次のコマンドを入力します。

```
boot: linux text
```

6. 画面上の指示と Red Hat のドキュメントに従って、Red Hat インストールの基本設定を続行します。

詳細なインストール手順については、次の Web サイトにある『Red Hat Enterprise Linux: Installation Guide』を参照してください。

(<http://www.redhat.com/docs/manuals/enterprise>)

---

**注** – Oracle Solaris OS または Oracle VM がディスクにインストール済みの場合は、ディスクをパーティションに分割してインストール済みの OS を削除するか、インストール済みの OS を削除せずにディスクをパーティションに分割し、デュアルブートオペレーティングシステムをサポートすることもできます。

---

7. Red Hat インストールの基本設定が完了したら、次に示すインストール後の作業を実行します。

- a. システムで自動更新を設定します。

詳細は、Red Hat のマニュアルを参照してください。

- b. 必要な場合は、RHEL 5.5 または 6.0 用の最新の訂正とバグ修正をダウンロードしてインストールします。

詳細は、Red Hat のマニュアルを参照してください。

- c. この章の後半で説明する、インストール後の作業を確認し、必要に応じて実行します。

[41 ページの「RHEL インストール後の作業」](#)を参照してください。



# PXE ネットワーク環境を使用した RHEL 5.5 または 6.0 のインストール

この節では、PXE ネットワーク環境から RHEL 5.5 または 6.0 を起動する方法について説明します。ここでは、次のいずれかのソースからインストールメディアを起動することを前提にしています。

- RHEL 5.5 または 6.0 以降のリリースの CD または DVD セット (内蔵または外付けの CD/DVD)
- RHEL 5.5 または 6.0 以降のリリースの ISO DVD イメージまたは KickStart イメージ (ネットワークリポジトリ)

---

注 – KickStart は、Red Hat の自動インストール方法です。これを使用すると、通常は一般的な Red Hat のインストール中に入力される、インストールと設定のパラメータの一部またはすべての設定値を含めた、単一のイメージを作成できます。通常、KickStart イメージは 1 つのネットワークサーバー上に配置され、インストール時に複数のシステムによって読み取られます。

---

## インストールを開始する前に

RHEL PXE インストールを実行する前に、次の要件を満たす必要があります。

- KickStart イメージを使用してインストールを行う場合、次の操作が必要です。
  - KickStart ファイルを作成します。
  - KickStart ファイルを含む起動メディアを作成するか、またはネットワーク上で KickStart ファイルを使用できるようにします。

『Red Hat Enterprise Linux: System Administration Guide』

(<http://www.redhat.com/docs>) の KickStart インストール手順に従ってください。

- PXE を使用してネットワーク経由でインストールメディアを起動するには、次の操作が必要です。
  - ネットワーク (NFS、FTP、HTTP) サーバーを、インストールツリーをエクスポートできるように設定します。
  - TFTP サーバーで PXE 起動に必要なファイルを設定します。
  - PXE 設定から起動するように Sun Fire X4470 M2 サーバーの MAC ネットワークポートアドレスを設定します。
  - DHCP (Dynamic Host Configuration Protocol) を設定します。

次の Web サイトにある『Red Hat Enterprise Linux: System Administration Guide』の PXE ネットワークのインストール手順に従ってください。

(<http://www.redhat.com/docs>)

## ▼ PXE ネットワーク起動を使用した RHEL 5.5 または 6.0 のインストール

1. PXE ネットワーク環境が正しく設定され、RHEL のインストールメディアを PXE 起動で使用できることを確認します。
2. サーバーの電源をリセットします。  
たとえば、次のように表示されます。
  - **Oracle ILOM Web インタフェース**で、「Remote Control」-->「Remote Power Control」タブを選択し、次に「Select Action」リストボックスから「Reset」を選択します。
  - **ローカルサーバー**の前面パネルにある電源ボタンを押して (約 1 秒) サーバーの電源を切り、もう一度電源ボタンを押してサーバーの電源を入れます。
  - **サーバー SP の Oracle ILOM CLI** で、次のように入力します。**reset /SYS**  
BIOS 画面が表示されます。

---

注 - 次のイベントがすぐに発生するため、以下のステップでは集中する必要があります。表示される時間が短いため、メッセージを注意して観察してください。スクロールバーが表示されないように画面のサイズを拡大してもかまいません。

---

3. BIOS 画面で、F8 キーを押して、一時起動デバイスを指定します。  
「Please Select Boot Device (起動デバイスを選択してください)」メニューが表示され、使用可能な起動デバイスが一覧表示されます。
4. 「Boot Device (起動デバイス)」メニューで、使用している PXE ネットワークインストールサーバーと通信できるように設定されているネットワークポートを選択します。  
ネットワークブートローダーが読み込まれ、起動プロンプトが表示されます。  
数秒後、インストールカーネルの読み込みが開始されます。
5. インストールを完了するには、[37 ページの「ローカルメディアまたはリモートメディアを使用した RHEL 5.5 または 6.0 のインストール」の手順 5](#)を参照してください。

---

## RHEL インストール後の作業

RHEL のインストールを完了したら、次に示すインストール後の作業を確認し、使用しているシステムで該当する作業を必要に応じて実行するようにしてください。

- 41 ページの「RHEL の登録と自動更新の有効化」
- 41 ページの「TPM のサポートの設定」

### RHEL の登録と自動更新の有効化

RHEL のインストール後、RHEL サブスクリプションを有効にして、ソフトウェアの自動更新を受信するようにしてください。詳細は、次の Web サイトにある Red Hat Linux のサポートを参照してください。

(<http://www.redhat.com/apps/support/>)

### TPM のサポートの設定

RHEL に用意されている Trusted Platform Module (TPM) 機能セットを使用する場合は、この機能をサポートするようにサーバーを設定する必要があります。手順については、各サーバーモデルのサービスマニュアルを参照してください。

- Sun Fire X4470 M2 サーバースービスマニュアル

---

注 – TPM を使用すると、サーバーの TPM セキュリティーハードウェアを管理できません。この機能の実装については、Red Hat Enterprise Linux に用意されている TPM のドキュメントを参照してください。

---

---

## Oracle Unbreakable Enterprise Kernel for Linux のインストール

RHEL 5.5 または 6.0 のインストール後、Oracle Unbreakable Enterprise Kernel for Linux のインストールと使用が可能になります。インストール手順については、[20 ページの「ローカルコンソールまたはリモートコンソールを使用した Oracle Unbreakable Enterprise Kernel for Linux のインストール」](#)を参照してください。



部

II

Linux システム管理者のための参照情報

必要に応じて次のシステム管理者リファレンスを参照し、Linux オペレーティングシステムのインストールを実行または完了してください。

説明	リンク
Linux インストールプログラムを配備するためのインストール環境の選択およびセットアップ手順	<a href="#">付録 A</a> インストール方法
本書の発行時点に Sun Fire X4470 M2 サーバーでサポートされているオペレーティングシステムの完全なリスト	<a href="#">付録 B</a> サポートされているオペレーティングシステム
Linux のインストールを実行する前に、BIOS のデフォルトプロパティが設定されていることを確認する手順	<a href="#">付録 C</a> 新規インストール時の BIOS のデフォルト設定
Sun Fire X4470 M2 サーバー用 Tools and Drivers Firmware の最新バージョンの ISO イメージをダウンロードする手順	<a href="#">付録 D</a> Tools and Drivers Firmware のダウンロード



# サポートされるインストール方法

サーバーに Linux オペレーティングシステムをインストールする最適な方法を決定するには、この付録で説明している次の内容を検討してください。

- 45 ページの「コンソール出力」
- 47 ページの「インストール起動メディア」
- 50 ページの「インストール先」

## コンソール出力

表 A-1 に、オペレーティングシステムをインストールする際の出力と入力を表示するためのコンソールを示します。

表 A-1 OS インストールを実行する際のコンソールオプション

コンソール	説明	セットアップ要件
ローカルコンソール	<p>ローカルコンソールをサーバー SP に直接接続することにより、OS のインストールやサーバーの管理を実行できます。</p> <p>ローカルコンソールの例として、次のものがあります。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>• シリアルコンソール</li><li>• VGA コンソール (USB キーボードおよびマウスを使用)</li></ul>	<p>1. ローカルコンソールをサーバーに接続します。</p> <p>詳細は、『Sun Fire X4470 M2 サーバー設置マニュアル』の「サーバーへのケーブルの接続」を参照してください。</p> <p>2. Oracle ILOM プロンプトで、Oracle ILOM ユーザー名とパスワードを入力します。</p> <p>3. シリアルコンソール接続の場合のみ、<b>start /SP/console</b> と入力して、ホストのシリアルポートとの接続を確立します。</p> <p>ビデオ出力がローカルコンソールに自動的にルーティングされます。</p> <p>サーバー SP との接続の確立方法については、Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.0 ドキュメントライブラリを参照してください。</p>

表 A-1 OS インストールを実行する際のコンソールオプション (続き)

コンソール	説明	セットアップ要件
リモートコンソール	<p>サーバー SP へのネットワーク接続を確立することにより、リモートコンソールから OS のインストールやサーバーの管理を行うことができます。</p> <p>リモートコンソールの例には、次のものがあります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• Oracle ILOM リモートコンソールアプリケーションを使用した Web ベースのクライアント接続</li> <li>• シリアルコンソールを使用した SSH クライアント接続</li> </ul>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. サーバー SP の IP アドレスを確立します。 詳細は、『Sun Fire X4470 M2 サーバー設置マニュアル』を参照してください。</li> <li>2. リモートコンソールとサーバー SP の間の接続を確立します。   <b>Web ベースのクライアント接続の場合は、次の手順を実行します。</b> 1) Web ブラウザにサーバー SP の IP アドレスを入力します。2) Oracle ILOM Web インタフェースにログインします。3) Oracle ILOM リモートコンソールを起動して、ビデオ出力をサーバーから Web クライアントにリダイレクトします。4) 「Device」メニューでデバイスの切り替え (マウス、キーボードなど) を有効にします。   <b>SSH クライアント接続の場合は、次の手順を実行します。</b> 1) シリアルコンソールからサーバー SP への SSH 接続を確立します (ssh root@ILOM_SP_ipaddress)。2) Oracle ILOM コマンドラインインタフェースにログインします。3) <b>start /SP/console</b> と入力してサーバーから SSH クライアントへシリアル出力をリダイレクトします。   ILOM SP へのリモート接続の確立や ILOM リモートコンソールの使用については、Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.0 ドキュメントライブラリを参照してください。</li> </ol>



# インストール起動メディア

サーバーへのオペレーティングシステムのインストールを開始するには、ローカルまたはリモートのインストールメディアソースを起動します。表 A-2 に、サポートされるメディアソースと、各ソースで必要なセットアップ要件を示します。

表 A-2 OS インストール実行のための起動メディア

インストールメディア	説明	セットアップ要件
ローカル起動メディア	<p>ローカル起動メディアには、サーバー上の組み込み型ストレージデバイスまたはサーバーに接続された外付けのストレージデバイスが必要です。</p> <p>サポートされる OS のローカル起動メディアソースには、次のものがあります。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>CD/DVD-ROM インストールメディア、および該当する場合はフロッピーデバイスドライブメディア</li></ul>	<ol style="list-style-type: none"><li>1. 使用しているサーバーに組み込み型ストレージデバイスがない場合は、サーバーの前面または背面パネルに適切なストレージデバイスを接続します。</li><li>2. ローカルデバイスをサーバーに接続する方法については、『Sun Fire X4470 M2 サーバー設置マニュアル』の「サーバーへのケーブルの接続」を参照してください。</li></ol>

表 A-2 OS インストール実行のための起動メディア (続き)

インストールメディア	説明	セットアップ要件
リモート起動メディア	<p>リモートメディアでは、ネットワークを介してインストールを起動する必要があります。ネットワークインストールは、リダイレクトされた起動ストレージデバイスか、Pre-boot eXecution Environment (PXE) を使用してネットワーク上にインストールをエクスポートする別のネットワークシステムから開始できます。</p> <p>サポートされる OS のリモートメディアソースには、次のようなものがあります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>CD/DVD-ROM インストールメディア、および該当する場合はフロッピーデバイスドライバメディア</li> <li>CD/DVD-ROM の ISO インストールイメージ、および該当する場合はフロッピーの ISO デバイスドライバメディア</li> <li>自動インストールイメージ (PXE 起動が必要)</li> </ul>	<p>リモートストレージデバイスから起動メディアをリダイレクトするには、次の手順を実行します。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>起動メディアを、次のようなストレージデバイスに挿入します。 <p><b>CD/DVD-ROM の場合</b>、組み込み型または外付けの CD/DVD-ROM ドライブにメディアを挿入します。</p> <p><b>CD/DVD-ROM ISO イメージの場合</b>、ISO イメージがネットワーク共有された場所ですぐに利用できることを必ず確認してください。</p> <p><b>デバイスドライバフロッピーメディア (該当する場合) の場合</b>、フロッピーメディアを外付けのフロッピードライブに挿入します。</p> <p><b>デバイスドライバフロッピー ISO イメージの場合</b>、ISO イメージ (該当する場合) がネットワーク共有された場所または USB ドライブ上ですぐに利用できることを確認する必要があります。</p> </li> <li>サーバーの Oracle ILOM SP に対する Web ベースのクライアント接続を確立し、Oracle ILOM リモートコンソールアプリケーションを起動します。詳細は、表 A-1 に示す Web ベースのクライアント接続に関するセットアップ要件を参照してください。</li> <li>Oracle ILOM リモートコンソールアプリケーションの「Device」メニューで、次のように起動メディアの場所を指定します。 <p><b>CD/DVD-ROM 起動メディアの場合は</b>、「CD-ROM」を選択します。</p> <p><b>CD/DVD-ROM ISO イメージ起動メディアの場合は</b>、「CD-ROM Image (CD-ROM イメージ)」を選択します。</p> <p><b>フロッピーデバイスドライバ起動メディアの場合は</b>、「Floppy (フロッピー)」を選択します (該当する場合)。</p> <p><b>フロッピーイメージのデバイスドライバ起動メディアの場合は</b>、「Floppy Image」を選択します (該当する場合)。</p> </li> </ol> <p>Oracle ILOM リモートコンソールの詳細は、Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.0 ドキュメントライブラリを参照してください。</p>

表 A-2 OS インストール実行のための起動メディア (続き)

インストールメディア	説明	セットアップ要件
リモート起動 メディア (続き)	<p>注 – 自動インストールイメージを使用すると、複数のサーバーで OS のインストールを実行できます。自動イメージを使用すると多くのシステムで設定を統一できます。</p> <p>自動インストールでは、Pre-boot eXecution Environment (PXE) 技術を使用し、オペレーティングシステムがインストールされていないクライアントをリモートで起動して、自動インストールサーバーからオペレーティングシステムをインストールします。</p>	<p>PXE を使用してインストールを実行するには、次の手順を実行します。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. PXE 起動経由でインストールをエクスポートするようにネットワークサーバーを設定します。</li> <li>2. OS インストールメディアを PXE 起動で利用できるようにします。</li> </ol> <p>自動 OS インストールイメージを使用する場合は、次のような自動 OS インストールイメージを作成する必要があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>- Solaris JumpStart イメージ</li> <li>- RHEL KickStart イメージ</li> <li>- SLES AutoYaST イメージ</li> <li>- Windows WDS イメージ</li> </ul> <p>インストールのセットアッププロセスを自動化する方法については、オペレーティングシステムベンダーのドキュメントを参照してください。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>3. インストールメディアを起動するには、一時起動デバイスとして PXE 起動インタフェースカードを選択します。</li> </ol>

# インストール先

表 A-3 に、オペレーティングシステムのインストールに使用できる、サポートされるインストール先を示します。

表 A-3 OS インストールのインストールターゲット

インストール先	説明	セットアップ要件	サポートされる OS
ローカルハードディスクドライブ (Hard Disk Drive、HDD) または半導体ドライブ (Solid State Drive、SSD)	サーバーに取り付けられているハードディスクドライブまたは半導体ドライブはどれでも、オペレーティングシステムのインストール先として選択できます。	HDD または SSD がサーバーに正しく取り付けられていて、電源が入っていることを確認します。 HDD または SSD の設置と電源投入については、サーバーに付属のインストールガイドまたはサービスマニュアルを参照してください。	付録 B に示す、サポートされているすべてのオペレーティングシステム。
ファイバチャネル (Fibre Channel、FC) Storage Area Network (SAN) デバイス	ファイバチャネル PCIe ホストバスアダプタ (Host Bus Adapter、HBA) が搭載されているサーバーでは、外付けの FC ストレージデバイスにオペレーティングシステムをインストールできます。	<ul style="list-style-type: none"><li>サーバーに FC PCIe HBA が正しく設置されていることを確認します。サーバーへの PCIe HBA オプションの取り付け方法については、『Sun Fire X4470 M2 サーバーサービスマニュアル』を参照してください。</li><li>ホストでストレージを認識できるように SAN を設置および設定します。手順については、FC HBA の付属ドキュメントを参照してください。</li></ul>	付録 B に示す、すべてのオペレーティングシステム。

## 付録 B

# サポートされているオペレーティングシステム

---

この付録の表 B-1 では、本書の発行時点で、Sun Fire X4470 M2 サーバーでサポートされているオペレーティングシステムを示します。

Sun Fire X4470 M2 サーバー上でサポートされているオペレーティングシステムの最新リストについては、Sun Fire x86 ラックマウントサーバーの Web サイトにアクセスし、Sun Fire X4470 M2 サーバーのページを参照してください。

(<http://www.oracle.com/technetwork/server-storage/sun-x86/overview/index.html>)

# サポートされているオペレーティングシステム

Oracle の Sun Fire X4470 M2 サーバーは、次のオペレーティングシステムまたはそれ以降のリリースのインストールと使用をサポートします。

表 B-1 サポートされているオペレーティングシステム

オペレーティングシステム	サポートされているバージョン	追加情報
Windows	<ul style="list-style-type: none"><li>• Microsoft Windows Server 2008 SP2、Standard Edition (64 ビット)</li><li>• Microsoft Windows Server 2008 SP2、Enterprise Edition (64 ビット)</li><li>• Microsoft Windows Server 2008 SP2、Datacenter Edition (64 ビット)</li><li>• Microsoft Windows Server 2008 R2、Standard Edition (64 ビット)</li><li>• Microsoft Windows Server 2008 R2、Enterprise Edition (64 ビット)</li><li>• Microsoft Windows Server 2008 R2、Datacenter Edition (64 ビット)</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>• Sun Fire X4470 M2 サーバー Windows オペレーティングシステム設置マニュアル</li></ul>
Linux	<ul style="list-style-type: none"><li>• Oracle Enterprise Linux 5.5 (64 ビット)</li><li>• Oracle Unbreakable Enterprise Kernel for Linux (64 ビット)</li><li>• SUSE Linux Enterprise Server (SLES) 11 SP1 (64 ビット)</li><li>• Red Hat Enterprise Linux (RHEL) 5.5 (64 ビット)</li><li>• RHEL 6.0 (64 ビット)</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>• <a href="#">第 3 章</a> Oracle Linux のインストール</li><li>• <a href="#">第 4 章</a> SLES のインストール</li><li>• <a href="#">第 5 章</a> RHEL のインストール</li></ul>
Solaris	<ul style="list-style-type: none"><li>• Oracle Solaris 10 09/10 または以降のリリース</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>• Sun Fire X4470 M2 サーバー Oracle Solaris オペレーティングシステム設置マニュアル</li></ul>
仮想マシンソフトウェア	<ul style="list-style-type: none"><li>• Oracle VM 2.2.1</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>• Sun Fire X4470 M2 サーバー仮想マシンソフトウェア設置マニュアル</li></ul>

# 新規インストール時の BIOS のデフォルト設定

---

ストレージドライブに新しいオペレーティングシステムをインストールする場合は、オペレーティングシステムのインストールを実行する前に、次の BIOS 設定が適切に設定されていることを確認するようにしてください。

- システム時刻
  - システム日付
  - 起動順序
- 

## BIOS の出荷時デフォルト設定の確認

BIOS 設定ユーティリティでは、必要に応じて BIOS 設定を表示および編集するだけでなく、最適なデフォルト値を設定することもできます。BIOS 設定ユーティリティ (F2 キー) で変更した設定はすべて、次回に設定変更するまで常時使用されます。

F2 キーを使用してシステムの BIOS 設定を表示または編集できるほか、BIOS の起動中に F8 キーを使用することで、一時起動デバイスを指定できます。F8 キーを使用して一時起動デバイスを設定した場合、この変更は現在のシステム起動のみで有効です。一時起動デバイスで起動したあとは、F2 キーで指定した常時起動デバイスが有効になります。

## インストールを開始する前に

BIOS 設定ユーティリティーにアクセスする前に、次の要件を満たしていることを確認します。

- サーバーにハードディスクドライブ (Hard Disk Drive、HDD) または半導体ドライブ (Solid State Drive、SSD) が搭載されている。
- HDD または SSD がサーバーに適切に設置されている。詳細は、『Sun Fire X4470 M2 サーバーサービスマニュアル』を参照してください。
- サーバーへのコンソール接続が確立されている。詳細は、[表 A-1](#) を参照してください。

## ▼ 新規インストール時の BIOS 設定の表示または編集

1. サーバーの電源を入れ直します。

例:

- **ILOM Web インタフェース**で、「Remote Control」-->「Remote Power Control」を選択し、次に「Select Action」リストボックスから「Reset」を選択します。
- **ローカルサーバー**を使用する場合、サーバーのフロントパネルにある電源ボタンを約 1 秒押し、サーバーの電源を切り、電源ボタンをもう一度押し、サーバーの電源を入れます。
- **サーバー SP の ILOM CLI**で、次のように入力します。**reset /SYS**  
BIOS 画面が表示されます。

2. BIOS 画面でプロンプトが表示されたら、F2 キーを押して BIOS 設定ユーティリティーにアクセスします。

しばらくすると、BIOS 設定ユーティリティーが表示されます。

3. 出荷時のデフォルト値に設定するために、次の手順を実行します。

- a. F9 キーを押すと、最適な出荷時のデフォルト設定が自動的に読み込まれます。  
メッセージが表示され、「OK (了解)」を選択してこの操作を続けるか、「CANCEL (キャンセル)」を選択してこの操作を取り消すよう指示されます。

- b. メッセージで「OK (了解)」を強調表示して、Enter キーを押します。

BIOS 設定ユーティリティー画面が表示され、システム時刻フィールドの最初の値でカーソルが強調表示されます。



4. BIOS 設定ユーティリティで次の手順を実行して、システム時刻またはシステム日付に関係する値を編集します。
  - a. 変更する値を強調表示します。

上下の矢印キーを使用して、システムの時刻と日付の選択を変更します。
  - b. 強調表示されたフィールドの値を変更するには、次のキーを使用します。
    - プラス (+) を押すと、表示されている現在の値が増加します。
    - マイナス (-) を使用すると、現在表示されている値が減少します。
    - Enter キーを押すと、カーソルが次の値フィールドに移動します。
5. 起動設定にアクセスするには、「Boot (起動)」メニューを選択します。

「Boot Settings (起動設定)」メニューが表示されます。
6. 「Boot Settings (起動設定)」メニューで、下矢印キーを使用して「Boot Device Priority (起動デバイスの優先順位)」を選択し、Enter キーを押します。

「Boot Device Priority (起動デバイスの優先順位)」メニューが表示され、認識されている起動デバイスの優先順位が示されます。リストの先頭のデバイスが、起動の優先度がもっとも高いデバイスです。
7. 「Boot Device Priority (起動デバイスの優先順位)」メニューで次の手順を実行して、リストの最初の起動デバイスエントリを編集します。
  - a. 上下矢印キーを使用してリストの先頭のデバイスを選択し、Enter キーを押します。
  - b. 「Options (オプション)」メニューで、上下矢印キーを使用してデフォルトの常時起動デバイスを選択し、Enter キーを押します。

「Boot (起動)」メニューおよび「Options (オプション)」メニューに表示されるデバイスの文字列は、デバイスタイプ、スロットインジケータ、および製品 ID 文字列で構成されています。

---

注 – 変更する各デバイス項目に対して手順 7a および 7b を繰り返して、リスト内のほかのデバイスの起動順を変更できます。

---

8. 変更を保存して BIOS 設定ユーティリティを終了するには、F10 キーを押します。

または、「Exit (終了)」メニューで「Save (保存)」を選択して変更を保存し、BIOS 設定ユーティリティを終了することもできます。変更を保存して設定を終了することを確認するメッセージが表示されます。メッセージのダイアログで「OK」を選択して、Enter キーを押します。

---

注 – Oracle ILOM リモートコンソールを使用している場合、F10 キーはローカル OS にトラップされます。コンソールの一番上で使用できる「Keyboard (キーボード)」ドロップダウンメニューに一覧表示される F10 オプションを使用してください。

---



## 付録 D

# Tools and Drivers Firmware のダウンロード

---

ツールおよびドライバのファームウェアが含まれたオプションの Documentation and Media Kit DVD を注文していない場合、または Tools and Drivers Firmware にサーバー用の最新のツールとドライバが含まれていることを確認する必要がある場合、この付録で説明しているダウンロード手順を実行します。

---

注 – Documentation and Media Kit DVD は、Oracle eDelivery サイトでいつでも注文できます。(<http://edelivery.oracle.com>)

---

## ダウンロード手順

Tools and Drivers Firmware の ISO イメージをダウンロードするには、次の手順を実行します。

### ▼ Tools and Drivers Firmware のダウンロード

1. (<https://support.oracle.com>) にアクセスします。
2. My Oracle Support にサインインします。
3. ページの上部にある「Patches and Updates (パッチとアップデート)」タブをクリックします。
4. 「Patches Search (パッチ検索)」ボックスで、「Product or Family (Advanced Search) (製品またはファミリー (詳細検索))」を選択します。

5. 「Product? Is (製品は?)」フィールドで、完全な製品名 (たとえば、Sun Fire X4470) を入力するか、または一致する製品名の一覧が表示されるまで、製品名の一部を入力してから、該当する製品を選択します。
6. 「Release? Is (リリースは?)」プルダウンリストで、下矢印をクリックします。
7. 表示された画面で、製品フォルダアイコンの隣にある三角印 (>) をクリックし、選択肢を表示してから、該当するリリースを選択します。
8. 「Patches Search (パッチ検索)」ボックスで、「Search (検索)」をクリックします。  
製品ダウンロードデータのリスト (パッチとしてリストされる) が表示されます。
9. 該当するパッチ名 (たとえば、Sun Fire X4470 SW 1.1 リリース向けのパッチ 10266805) を選択します。
10. 表示された右側の区画で、「Download (ダウンロード)」をクリックします。

# 索引

---

## A

AutoYaST  
SLES OS, 30

## B

BIOS  
出荷時のデフォルト設定の確認, 53  
新規インストール時の設定の検証, 9  
設定の編集および表示手順, 54

## I

ISO イメージ  
Oracle Linux OS, 14  
RHEL OS, 37  
SLES OS, 25

## K

KickStart, 17, 39  
Oracle Linux OS, 17  
RHEL OS, 39

## L

Linux OS  
RAID ボリュームのディスク要件, 9  
インストールの前提条件, 9  
サポートされているオペレーティングシステム, 8

## O

Oracle Hardware Installation Assistant  
概要, 3

ソフトウェアダウンロード URL, 5  
ドキュメント URL, 5

Oracle Linux OS, 17  
ISO イメージ, 14  
PXE ネットワークインストール, 17  
インストール後の作業, 19  
インストール方法, 13  
サーバーの電源のリセット, 14  
自動更新, 19  
製品の登録, 19  
ローカルメディアまたはリモートメディアを使用したインストール, 13  
Oracle Unbreakable Enterprise Kernel  
インストール, 20  
説明, 12

## P

PXE インストール  
Oracle Linux OS, 18  
RHEL OS, 40  
SLES OS, 31

## R

RedHat Enterprise Linux  
「RHEL OS」を参照  
RHEL OS, 39  
ISO イメージ, 37  
PXE ネットワークインストール, 39  
一時起動デバイス, 40  
インストール後の作業, 41

- インストール方法, 36
- 起動ディスクイメージ, 37
- 自動更新, 38
- ローカルメディアまたはリモートメディアを使用したインストール, 36

## S

### server

- 電源のリセット, 25

### SLES OS

- AutoYaST, 30
- ISO イメージ, 25
- PXE ネットワークインストール, 30
- PXE ブート, 31
- YaST オンラインアップデート, 32
- アップデート, 32
- インストール後の作業, 32
- 自動インストールの準備, 30
- インストール方法, 24
- サーバーの電源のリセット, 25, 31
- ローカルメディアまたはリモートメディアを使用したインストール, 25

### SUSE Linux Enterprise Server

- 「SLES OS」を参照

## T

### Tools and Drivers DVD

- ISO イメージのダウンロード, 57

### Tools and Drivers Firmware, 9

Trusted Platform Module (TPM) の設定, 19, 33, 41

## い

### 一時起動デバイス

- Oracle Linux OS, 14
- RHEL OS, 40
- SLES OS, 25

インストール起動メディア, 47

### インストール後の作業

- Oracle Linux OS, 19
- RHEL OS, 41
- SLES OS, 32

インストール先, 50

## き

### 起動ディスクイメージ

- Oracle Linux OS, 13
- RHEL OS, 37

起動メディア, 47, 48

## さ

### サーバー

- 電源のリセット, 14, 18, 37, 40

サポートされているオペレーティングシステム

- Sun Fire X4470 M2 サーバー, 52

- 最新リストの URL, 51

## し

### 自動更新

- Oracle Linux OS, 19
- RHEL OS, 38
- SLES OS, 32

## せ

### 製品の登録

- Oracle Linux OS, 19
- RHEL OS, 41

## は

ハードディスクドライブ、インストールターゲットとして, 50

半導体ドライブ、インストールターゲットとして, 50

## り

リモートコンソール、OS インストールに使用, 46

## ろ

ローカルコンソール、OS インストールに使用, 45